

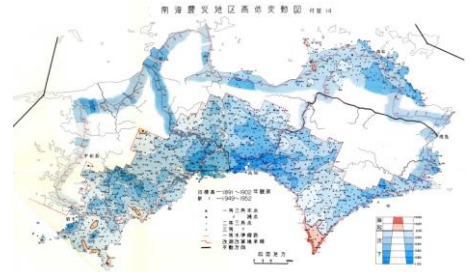
主な展示内容

■基線尺と経緯儀の時代 (1880年代～1950年代)

日本全国をカバーする5万分1地形図を作成するため、まず基線となる測量を実施し、一辺の長さを決めました。その後、経緯儀などを使用し日本の骨格となる一等～三等の三角測量、また水準測量を行いました。

基線標石、基線尺、一～三等経緯儀などを展示します。

また、1946年(昭和21年)に発生した南海地震では、測量の成果を改訂するために変動が大きかった地域の測量を行いました。その測量で得られた水平変動、上下変動を表した変動図を展示します。



1946年南海地震地区高低変動図

■光波測距儀の時代 (1950年代後半～2000年代)

光波測距儀の登場により、精度が向上し、観測時間の短縮が図られました。使用されていたジオジメーター8型、HP3800B、メコメーターME5000などを展示します。



光波測距儀

■宇宙技術の時代 (1980年代～)

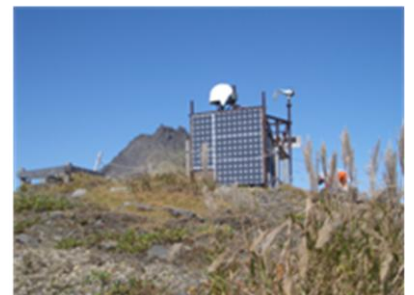
人工衛星などを利用した測量が可能となり、測量に要する時間が大幅に短縮されました。また、広範囲の測量や、面的なデータの取得が可能となりました。電子基準点を全国に設置することにより、測量の基準点として活用するとともに、全国の地殻変動をリアルタイムで監視することができるようになりました。GNSS測量機、平成23(2011年)年東北地方太平洋沖地震における地殻変動図などを展示します。



電子基準点

■最新の測量機器

TS(トータルステーション)、GNSS火山変動リモート観測装置(REGMOS)、レーザースキャナーなど現在使われている最新の測量機器を展示します。



GNSS火山変動リモート観測装置 (REGMOS)